

科目名	カリキュラム研究特論	担当教員	水内 宏
科目属性	専門科目	単位数	2単位（面接0.5単位）
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p><b>【授業概要】</b></p> <p>1. 教師や学校教職員集団による個々の生徒および生徒集団の人格と能力の統一的発達の見通しとしてのカリキュラム（教育課程）とその編成に関して、今日までの教育研究上の理論的到達点や見解の相異点などをトータルに把握し、自分なりの見識も持てるようにする。</p> <p>2. 市民・国民・地球人として必要な教養水準の確保と教育内容・カリキュラムに関する国民的合意の確立の重要性、そのための基準的文書という性格を担う学習指導要領の在り方をともに探究する。</p> <p>3. 人間らしい生存と生活の確保という福祉的観点の強化などを図りつつ21世紀にふさわしい学校を創造するために、学校とカリキュラム（教育課程）の改革方向をともに探究し合う。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b></p> <p>1. カリキュラム（教育課程）改革の今日までの変遷や論議を踏まえつつ、その編成原理、全体構造——各教科や教科外諸活動（特別活動）など各領域それぞれの固有の役割と相互関連——などに関して考察を深める。</p> <p>2. 学校の在り方を考える「3つの基調」（後述「授業計画」3－②）を提起したうえで、学校改革の基本方向をカリキュラム（教育課程）論と学校論レベルで検討する。</p> <p>3. カリキュラムに関する基準的文書としての学習指導要領と内外の各種学力調査等の検討を通じて、子ども・青年に確保されるべき学力の内実を考える。</p>			
<p><b>【授業計画】</b></p> <p><b>【第1の柱】カリキュラム（教育課程）の原理と構造に関する考察</b></p> <p>① 学校による子どもの能力と人格の発達見通しとしてのカリキュラム（教育課程）</p> <p>② カリキュラムの構造</p> <p>原理論として；各教科（subjects）の編成として誕生し、次第に教科以外の諸活動（extra-curricular activities）が取り込まれるようになった経緯をふまえた二領域論</p> <p>実態論として；現実には、子どもの「必要」や「社会の要求」などを根拠として、原理論とは異なる様相を示すカリキュラムの実態</p> <p>③ カリキュラムにおける分化と総合</p> <p><b>【第2の柱】カリキュラム（教育課程）と学力に関する考察</b></p> <p>① 学校週5日制完全実施で学力は果たして低下したのか？—5日制の潜在的本来の可能性とカリキュラム—</p> <p>② 「学力低下」論議と学習指導要領</p> <p>③ 「学力」概念の再吟味</p> <p><b>【第3の柱】21世紀の学校、その基本的方向</b></p> <p>① 学校をこう変える—学校の教育機能と福祉機能、両機能の結合を学校論・教育課程論の問題として考えたらどうなるか。特に、福祉的機能をどう強化するか。—</p> <p>② 学校の在り方を考える3つの基調</p>			

- (1) 生存権的基本権の文化的側面の充足の任を負う学校
- (2) 地域住民との共生・連帯を創出・発展させる学校
- (3) 生涯学習の基底を培う任を負う学校

**【評価方法】**

スクーリング内容 40%、レポート 40%、科目修得試験 20%ほどの割合で総合した評価となります。

**【教科書】**

担当教員からの配布資料、および日本教育方法学会編『現代カリキュラム研究と教育方法学—新学習指導要領・PISA 型学力を問う—』（図書文化、2008）

ISBN: 9784810085228

**【参考図書】**

水内 宏『学校づくりと教育課程』（青木書店）

水内（編著）『スポーツ部活はいま』（青木書店）

稲垣忠彦・肥田野直編、水内他執筆『教育課程・総論（戦後日本の教育改革・第6巻）』（東京大学出版会）——2014.3月、復刻重版されました。